どオキアミ類やコペポーダ類で小魚類は稀に捕食されている程度で、全体に満腹ないしそれに近い状態にある個体が多かったことも印象的であった。

２）第３日新丸船団

古　川　文　康　（大洋漁業株式会社）

捕鯨をめぐる環境は年毎に厳しさを増しているが、第２３次（昭和４９年次）北洋捕鯨は前次にくらべナガスクジラの捕獲枠が１５％減っただけで、イワシクジラおよびマッコウクジラについては据置きになった。すなわち第３日新丸船団の捕獲枠はナガスクジラ７２頭、イワシクジラ５４５頭およびマッコウクジラ６０１頭で、船団編成も昨年と同じく冷凍船なしの母船と捕鯨船７隻で５月２１日横須賀を出港した。

(A)　第一回南方海区

期間：　５月２５日～６月１日、８日間

捕獲：　Ｓｅ７頭、Ｂｒ７３頭、Ｓｐ６０頭（オス５６、メス４）

今年は東北沿岸で例年にくらべ冷水の勢力非常に強く、漁業に影響がでている報道があったので、東経漁場は時期尚早とみて、ひとまず南寄りのニタリクジラを狙うべく５月２５日３５°０５′N、１６５°０３′Eより操業を開始、漸次東南東へ操業した。幸い好天に恵れてニタリクジラの発見もボツあり、マッコウクジラも混獲しながら５月３１日１７９°Eで反転し、イワシクジラを狙って北西方面へ操業した。

(B)　東経海区

期間：　６月２日～６月１５日、１４日間

捕獲：　Ｆ２頭、Ｓｅ４７頭、Ｂｒ７頭

やはり３５°N以北に上ると天候悪く、風が収まればガスである。３６～３８°N、１６７°E付近でイワシクジラがボツ発見あったが天候悪く、またイワシクジラもまとまらず東進操業とし、あと再び南下した。

(C)　第２回南方海区

期間：　６月１６日～６月２５日、１０日間

捕獲：　Ｓｅ３頭、Ｂｒ１１９頭、Ｓｐ３６頭（オス２８、メス８）

３１°N線まで南下、表面水温２０°Cとなりニタリクジラが見えてくる。雨と風が交互にあり、よい天気とは言えなかったがニタリクジラとマッコウクジラが共にボツ見え、漸次東進、操業した。ニタリクジラは生産が上らぬため、捕獲も２００頭近くなったので１７４°W付近より北向き操業した。

(D)　西経海区

期間：　６月２６日～９月６日、７３日間

捕獲：　Ｆ７０頭、Ｓｅ２３７頭、Ｓｐ４２３頭（オス３７６、メス４７）

３９°N、１７０°W付近へ北上したが、天候悪くそれ以上あがれず、南側で捨い歩いた。７月は

じめガスの合間を縫って４２°N、１５４°W付近でイワシクジラの発見があり、有望と思われたが天候回復せず東進、調査船の発見を頼りに途中大マッコウを捕獲しながら７月下旬バンクーバー沖でナガスの捕獲を続けた。この付近はナガスクジラに混ってシロナガスクジラの発見がひじょうに多かった。

７月末からカナダ沿岸を北上、アラスカ湾中央部で中マッコウを発見し、続けて捕獲があった。イワシクジラはほとんど見えないが、ザトウクジラの発見は多い。ナガスクジラは８月５日に７２頭の捕獲枠を達成した。その後南西方向へ移動したが、前線や低気圧をかわすのに終始していたところ、８月１４日４２°N、１６０°W付近で、折からのガス雨の中でイワシクジラの群を発見した。ところが翌日第２図南丸船団と混戦となり２日間で捕り尽してしまった。その後北側を１４０°Wまで東進操業したが海況の良いところはガスにたたられ、ほとんど捕獲なく反転、４２°N線を西進し前回の漁場で一山当っただけで後続かず、残余日数も少くなったので、南方のニタリクジラとマッコウクジラにて勝負をつけるべく南下した。

(E) 第３回南方海区

期間：　９月７日～９月１３日、７日間

捕獲：　Ｂｒ５２頭、Ｓｐ８２頭（オス２２、メス６０）

３０°N、１６７°W付近から西進操業、小マッコウの群多く、９月９日マッコウクジラの捕獲枠６０１頭に達した。次いでバンクーバー沿いに北西へ操業、３４～３５°N間にてニタリクジラの発見があり、９月１３日３４°３０′N、１７９°４５′Eでイワシクジラの捕獲枠５４５頭を完了し、合計１１２日間におよぶ第２３次北洋捕鯨は完了した。

(F) ま と め

第３日新丸船団は４０°N以北においては天候に悩まされることが多く、止むなく南に下りニタリクジラの捕獲が多くなった。このため冷凍製品が減産したことは残念であった。マッコウクジラについては、３５°N以北ではオスの発見が多く、オス・メスの捕り分けは前年ほどの苦労はなかった。特筆すべきことは、アラスカ湾南部においてシロナガスクジラとザトウクジラの発見が多かったことである（重複しているが各捕鯨船の発見を合計するとシロナガスクジラ２１６頭、ザトウ１１０頭）。

第３日新丸船団による過去３年の鯨種別発見頭数

鯨種＼年次	２１（S・４７）	２２（S・４８）	２３（S・４９）
F	３３１	１６８	４２１
Se*	９４１	７９７	７４７
Sp	８２８	１６２４	１６５２
B	２９	１６	２２３
H**	１１	６	１１８
R***	３	２	１
M****	７３	２７	６７

＊Ｂｒを含む

＊＊ザトウ、＊＊＊セミ、＊＊＊＊ミンク

３）第２図南丸船団

高　橋　長　幹　（日本水産株式会社）

２３次北鯨第２図南丸船団は５月２８日操業を開始し、９月７日終了した。操業日数１０３日（ひげ・まっこう混獲９２日、まっこう専漁１１日）でありこの間の捕獲はＦ７２ Sei ４２９ Br 115、Sp ６０１頭であった。当船団は主として東経漁場で操業したが、漁場が南偏しニタリ鯨の捕獲があった事が特色である。

主漁場としては

(A)　３７°Ｎ、１６８°E附近を中心とした Sei 漁場

(B)　ミルウオーキーバンクからミドウェー沖合にかけてのＢｒ、Ｓｐ漁場

(C)　４８°Ｎ、１７０°Ｅ附近を中心としたＦ及 Sei 漁場

の３漁場であり西経での操業は大型のＳｐを主体とした移動操業であった。

各漁場について簡単に述べる。

(A)　３７°Ｎ、１６８°Ｅ付近の Sei 漁場

１９～２０℃台の暖水の突込みの周辺に形成された漁場で鯨は大型で動きは早かった。この北には１２～１５℃の冷水の張り出しがあり、水温傾度大きく、約１ケ月間この傾向が続いた。鯨の餌量は小鯖が主で摂餌量は多かった。

２０℃台以上の水帯には Sei 発見なく少数のＢｒが見られた程度であった。

	F	Sei	Br	Sp	B	H
発見	１６	３０２	１５	１０２	１	１
捕獲	７	２３４	７	１０		

操業：５月２８日から６月にかけての２９日間